

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の主体的な教育活動の実践を通して、次代をリードし地域社会を支える人材を育成し、地域に根ざし、地域とともに歩む学校をつくる。

《育む四つ葉のクローバー（4つのチカラ）》

- (1) 【確かな学力】 基本的な学習習慣を身につけ、主体的な学びを通して社会につながる学力を養い、希望の進路を実現する力
- (2) 【コミュニケーション力】 豊かな人権感覚を持って違いを豊かさに捉える感性を育み、人とつながり、ともに高めあう仲間をつくる力
- (3) 【課題解決力】 「答えのない問い」に真摯に向き合い、思考力・判断力・実践力を養い、未来を創造する力
- (4) 【地域貢献力】 地域との連携や交流を通して、地域とつながり、地域の「人づくり・町づくり」に貢献する力

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 【授業力向上】 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざし、不断の授業改善に取り組む。
 - ア 授業力向上に係る取組みを教務部に位置づける。教科と協働し、公開授業及び研究協議、相互授業見学、授業アンケートを活用した授業改善を進める。
 - ※「授業アンケート」による全評価軸平均を毎年引き上げ、令和4年度には3.21(H29:3.13 H30:3.16 R1:3.19)にする。
 - イ 「主体的・対話的で深い学び」の授業やICT機器等を用いた授業を展開することにより、教員の授業力及び生徒の授業満足度の向上をはかる。特に「why(なぜ学ぶか)」「so what(だから何なのか)」等を考えることが学びの中心になるような授業づくりを重点的に進める。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」に対する満足度を令和4年度には76%(H29:66.0 H30:70.6 R1:73.6)にする。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「ICT機器が授業等で活用されている」に対する満足度(85.0%)を維持する。(H29:76.0 H30:82.0 R1:85.0)
- (2) 【進路実現の支援】 教育産業を活用した基礎学力の定着を組織的に図り、生徒の希望する進路の幅を広げ、その実現を支援する。
 - ア 学力向上支援委員会が主導し、教科・学年の協働による教育産業の学習支援プログラムを有効に活用し、生徒個別の学習課題の克服と学習習慣の確立を図る。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「家庭での学習時間を確保している」に対する肯定率を令和4年度には50%にする。(H29:47.0 H30:44.3 R1:45.6)
 - イ 早朝及び放課後や長期休業中の補習・講習の充実に取り組み、校内で自習できるスペースの整備・拡充を進める。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「補習・講習を十分行っている」に対する満足度を令和4年度に77%にする。(H29:71.0 H30:76.4 R1:75.6)
 - ウ 進路指導部と学年・教科が協働してクラス担任の進路指導力の向上に努め、生徒に寄り添い能力を引き出す指導を行い、希望の進路実現を図る。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における進路指導満足度を令和4年度には82%(H29:75.0 H30:75.9 R1:79.8)にする。
- (3) 【専門コース制の充実】 2つの専門コース及び一般理系における3年間を通した学習プログラムを構築・遂行し、希望の進路実現を図る。
 - ※人文探究専門コース、一般理系及び一般文系の生徒の難関私立大学（関西8私大等）及び国公立大学の現役合格者数20人以上とする。(H29:23 H30:11 R1:20)
 - ※令和2年度入学生の専門コース選択者について、子ども保育専門コース15名、人文探究専門コース40名を目安とし、進路指導を充実させる。

2 コミュニケーション力の育成

- (1) 【生徒指導の充実】 基本的生活習慣の改善・定着を図るとともに、マナーや規範意識を醸成するなど社会性の向上を図る。
 - ア 挨拶、身だしなみの改善・定着、SNS使用上のモラル向上、遅刻指導の強化、安全通学の啓発を全教職員で取り組む。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「基本的習慣の確立に力を入れている」に対する肯定率(70.0%)を維持する。(H29:63.0 H30:65.0 R1:70.0)
 - ※年間遅刻者数を令和4年度には1,200未満にする。(H29:2,036 H30:1,901 R1:1,383)
- (2) 【ともに高めあう集団育成】 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の主体的な行動を促し、生徒の自主性や社会性を醸成する。
 - ア 部活動や各種行事を通じて周囲との協調性を養い、課題に向かって仲間とともに越える力を醸成する。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度(74.6%)を維持する。(H29:71.0 H30:65.3 R1:74.6)
- (3) 【人権尊重の教育の充実】 一人ひとりを大切に、だれもが安心して安全に学べる学校をつくる。
 - ア 心の教育を充実させ、生命と人権を尊重し、多様性を尊重し他者を思いやる豊かな人間性を育む。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「学校の人権意識育成姿勢」に対する肯定率を令和4年度には80%にする。(H29:68.0 H30:72.1 R1:78.4)

3 課題解決力の育成

- (1) 【主体的・対話的で深い学びの実践】 授業や学校行事等において、生徒の主体的・対話的で深い学びの機会を持ち、思考力・判断力・表現力を育成する。
 - ア 「総合的な探究の時間」では、調べ学習に終わることなく自分の考えを発表する機会を積極的に設定する。また、3か年の実施計画を作成する。
 - イ グローバルな視点を養い、SDGsの達成のために「いつ・どこで・だれと・何を・どのように」行動すればよいか考え、自ら主張できる力を醸成する。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「自分の考えをまとめて発表する」を令和4年度には50%にする。(H29:47.1 H30:45.5 R1:46.2)
- (2) 【部活動の充実】 部活動を通して自己の課題を克服し、挑戦し続ける力を育成する。共通の目標に向かい努力し続けるチームをつくる力を醸成する。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「部活動に積極的に取り組む」を令和4年度には50%にする。(H29:55.0 H30:52.2 R1:47.5)

4 地域貢献力の育成

- (1) 教科・学年・分掌・部活動との協働による地域交流や社会資源を活用した教育活動を拡充する。
 - ア こども保育専門コース生徒によるこども園等への出前授業や交流。
 - イ 人文探究専門コース、一般系生徒による小・中学生への出前授業等の実施。
 - ※生徒による出前授業や地域交流の範囲を広げ、参加生徒が達成感を実感し、自己肯定感が高まるような活動内容の充実を図る。
- (2) 学校教育活動全体を通して組織的・計画的に学校保健活動を展開する中で、生徒の健康教育・防災教育の推進、主体的に清掃する意識と行動力を養う。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「命を大切にする心を学ぶ」に対する肯定率(83.0%)を維持する。(H29:71.0 H30:77.9 R1:83.0)
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「清掃が行き届いている」に対する肯定率を令和4年度には65%にする。(H29:54.0 H30:59.5 R1:58.4)
- (3) 開かれた学校づくりの推進
 - ア 学校運営への一層の協力・理解を求め、保護者に対する情報提供をきめ細かく行う。
 - ※保護者向け学校教育自己診断における「教育情報の提供」に対する満足度を令和4年度には75%にする。(H29:83.0 H30:67.3 R1:72.8)
 - ※保護者向け学校教育自己診断における「本校HPをよく見る」に対する肯定度を令和4年度には50%にする。(H29:41.0 H30:47.0 R1:47.2)
 - イ 地域に信頼され、地域の誇りになる学校をめざし、生徒と地域との交流を積極的に進め、地域とのつながりを強める。
 - ウ 中高連絡会の充実など、生徒が通う地域の中学校との連携を深める。

5 学校経営・運営体制の強化

- (1) 普通科専門コース設置校としての学校経営を推進し、円滑な学校運営とその機動力を高めるため組織力を強化し「チームみどり清朋」をつくる。
 - ア 運営委員会の活性化を図り、担当する分掌・学年のリーダーとして相互に連携・協力して、様々な課題を解決する計画の立案に携わる。
 - イ 教員間のOJTを機能させ、経験年数の少ない教員、ミドルリーダーの育成を図る。
 - ウ 「働き方改革」の推進のため、職員室の機能を1階大職員室に集約し、職員間の迅速かつ正確な情報共有を図り、分掌・学年・教科相互の連携を強める。
- (2) 教職員対象の本格的な実働防災訓練を昨年度に引き続き実施し、地域と協働する等、より内容を充実させ成果あるものにする。
- (3) 支援を必要とする生徒への支援体制を充実し、家庭や地域との連携を深め、全ての生徒に対し、安心して安全な高校生活が保障できるように努める。
 - ア SC及びSSWを配置し、校内教育相談体制を充実させるとともに、外部公的機関との連携を深め、迅速かつ的確な支援を行い中退防止等に努める。
 - ※保護者向け学校教育自己診断における「先生はさまざまな問題を見逃さずに対応」に対する肯定率を令和4年度には75%にする。(H29:76.0 H30:68.9 R1:69.0)
 - イ 個別の支援計画の策定・実施を分掌・学年・教科の協働により組織的に遂行し、すべての生徒が安心安全に学ぶ環境づくりを進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【全般】 表中の()は前年度比</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍の中、様々な局面で例年通りに進めることができないこともあり、厳しい結果が出るものと予想されたが、生徒及び保護者の肯定的回答率が上昇するという結果となった。「不安や心配を抱えながらも現実を受けとめ、学校の教育活動、指導に理解が得られたこと」「教職員が生徒や保護者の立場に立って、行き届いた指導やサポートができるよう可能な限り努力を続けたこと」が上昇の要因ではないかと捉えている。 <p>【学校満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒「入学してよかった」: 85.9%(+3.6)、「学校に行くのが楽しい」: 80.0%(−0.5) ○保護者「入学させてよかった」: 93.8%(+5.4)、「楽しみにしている」: 85.7%(−0.8) 一部、わずかに下降しているものの、概ね高い水準が得られている。 ○「他校にない特色」生徒: 63.0%(+3.3)、保護者: 65.8%(+11.7) ○「コースや授業は役立つ」生徒: 77.1%(+0.2)、保護者: 83.7%(+1.6) <p>こうした結果は、「普通科専門コース制」の教育内容の充実に向けた教職員の努力と、それに応える生徒たちの意識と行動、保護者の理解と協力によるものであると考える。今後も、文系・理系を含む4つのコースの特長を生かし、生徒の「4つのチカラ」を引き出し、伸ばすことで、生徒の希望進路の実現にもつなげていきたい。</p> <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「教え方に工夫し授業はわかりやすい」生徒: 77.0%(+3.4)、保護者: 89.2%(+19.5) ○「ICT機器の活用」生徒: 87.8%(+2.8)、教員: 85.7%(−4.7) ○教員「授業方法等の検討する機会を積極的に持っている」34.7%(+2.0) 「年間の学習指導計画を教科でよく話し合っている」55.1%(+3.2) 生徒が「わかりやすい」と感じ、その感想が保護者に伝わっているものと考えられる。今後も、生徒の理解を深め学力を伸ばす授業づくりに取り組むことが重要である。 ○生徒「自分でまとめる・発表する」54.4%(+8.2) 今後も、コロナ対策を講じながら「主体的・対話的で深い学び」を追求し、生徒の「思考力・判断力・表現力」のより一層の育成をめざした教育を充実させる必要がある。 ○「家庭学習時間の確保」生徒: 51.8%(+6.2)、保護者: 44.6%(+3.9) ○「補習・講習は十分」生徒: 76.3%(+0.7)、保護者: 70.1%(+4.2) <p>コロナ禍の中での家庭学習、予習・復習、学習習慣の定着に向けた教員の粘り強い働きかけ、生徒の実践の現れであると捉える。また、日々の自習室等の利用など、自ら授業外学習に取り組む生徒の増加も確認できている。今後ともこうした良い習慣づくりを推進していくことが重要である。そして、「学力向上支援委員会」を中心とする、教育産業による1、2年生対象の基礎学力調査、年2回のスピーキングテストを含む実力診断テスト及び学習支援クラウドサービスを活用した取組みをさらに生かし、学習習慣の定着及び学力向上を実現する具体的方策の立案・実践を組織的に進めたい。</p> <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒「先生の指導は適切」79.9%(+5.6)、「基本的習慣の確立」75.4%(+5.4) ○保護者「指導方針に理解」79.9%(+5.6)、「指導に協力」79.0%(+3.6) 生徒は学校の指導を理解し、主体的に基本的習慣を確立させようと努めている。遅刻数のさらなる減少を含め、保護者の協力と教員の地道な指導の成果と認められる。今後、生徒会活動等の自主的な啓発活動を促進するなどの工夫を模索していきたい。 <相談対応>○生徒「先生は意見をよく聞く」75.2%(+5.4) 「担任以外に相談できる先生がいる」61.1%(+2.1) ○保護者「相談に適切に応じる」82.7%(+5.0)、「生徒の相談に親身」73.4%(+4.4) 今後も、引き続き生徒相談体制の充実が重要である。 <進路指導>○生徒「進路実現に向けて適切な指導」84.2%(+4.4) 「奨学金について十分に説明」85.9%(+9.2) 「コースガイダンスは適切」84.6%(+4.9) ○保護者「進路情報提供は適切」76.4%(−1.4)、「進路指導が適切」78.1%(+0.8) 日々の担任と進路指導部の指導やサポート、「総合的な学習(探究)の時間」での進路HR、卒業生による講話等の成果である。一方、情報提供の工夫が必要である。 <人権教育>○生徒「クラスやクラブは話せる集団」79.6%(+5.0) 「人権教育の推進」85.6%(+7.2)、「命の大切さや規範意識を学ぶ」85.4%(+2.4) いずれも4年連続して上昇していることは、個々の教員による人権尊重の姿勢と行動の成果であろうが、改善すべき点もある。より適切な言葉かけに努める必要はある。 <部活動>○生徒「部活動に積極的に取り組んでいる」61.4%(+13.9) ※大幅に上昇 昨年3月末から約3ヶ月の活動停止の影響が懸念されたが、各部や生徒会の努力により部活動加入率は51.2%(−0.8)とほぼ維持ができた。大幅な上昇は生徒の前向きな姿勢の表れであると考え。好成績を収める部も増えており、地域交流や中高間の部活動交流等を充実させることで部活動のさらなる活性化、学校理解に一層つなげていきたい。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員「組織的な講習」69.4%(+7.2)、「学校行事の工夫改善」79.6%(+10.2) 「学年・分掌は組織的」61.2%(+13.1)、「組織間の連携」34.7%(+13.5) ○生徒「特色ある教育活動」63.0%(+3.2)、「先生は協力して指導」67.9%(+7.6) ○保護者「保護者の相談に適切」82.7%(+7.0)、「家庭への連絡・意思疎通」68.3%(+7.1) 「教育情報の提供」76.8%(+4.0) <p>コロナ禍の中で不測の対応に追われる中、教職員間、組織間、事務室との連携に向けた相互の努力、大職員室の配席などの効果が表れている。今後も主体的で連携・協力を生かした組織運営に努めることで、持続可能な組織運営をめざして取り組んでいきたい。</p> ○「ホームページ」生徒34.1%(+6.5)、保護者56.4%(+9.2) 引き続き充実を図る。	<p>【第1回】 書面開催(当初6月18日(木)に実施予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導等について ・部活動と学習(授業、講習、補習等)の両立には、「切り替えられる」という能力をどう鍛えたらよいかを考える必要がある。 ・スタディープログラムの活用向上等、教職員の一層の頑張りをお願いする。 ・SSWが社会資本や自治体、学校、家庭との調整のため外で活動できるような体制を構築できたらと思う。 ・「こども保育専門コース」は非常に地域連携が進んでいる。一定ニーズのあるコースであるので今後も頑張ってほしい。広報活動で生徒募集の力になると思う。 ○生徒指導全般について ・子供たちの生涯において、高校時代のクラブ活動を通じての友人関係は貴重な宝になり得る。クラブ活動を充実させる取組みをお願いする。 ・自転車マナーの講習会の開催等、生徒の安全の為に今回の道路交通法の改正についての周知指導も検討いただきたい。「遅刻指導」の継続をお願いします。 ○学校運営全般について ・中学校への広報活動では、在校生に出身中学を訪問させる企画はどうか。 ・地域活動・部活などを更に盛り上げる施策や、先端技術講習(ロボット講習)やAI講習など、社会との接点を増やし社会性向上と生徒の興味引き出しに重点を。 ・3年間の高校生活で「みどり清朋」に入れば「成績が伸び、様々な社会経験のチャンスや自由で相互尊重する人格形成ができる」などの特色を打ち出す。 ・「実働防災訓練」については、第1次避難所となっている池島学園の教職員の方々にも積極的に参画いただき、広範囲で対応ができる体制に繋げていければ良い。 <p>【第2回】 10月5日(月)開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業アンケート結果及び各学年・分掌からの報告を受けて(生徒741人の平均の全体平均が「3.31」で例年以上に高かった。「満足度」は「87.5%」で、生徒のほとんどが4か3を答えている。) ・授業アンケートの結果が優位に改善されている。コロナが原因としてあったのだろうが、先生方の報告を聞き、この結果につながるような取り組みが多々あったように感じる。今後もみどり清朋の校風を強みとして生かしていただきたい。 ・この数年間の先生方の努力が形になって表れてきていると感じている。 ○地域との連携活動について ・例年ならば11月に「池島音楽祭」を実施していたが今年度は中止。「文化祭」で茶道部にお茶席でのお手伝いをお願いしようと思っていたが、年度末に延期。今後の状況を踏まえ、実施の際には連携をお願いしたい。 <p>【第3回】 書面開催(当初2月15日(月)に実施予定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力の育成 ○授業アンケートと共に授業への評価が上がっている。特にICT機器の活用、考え発表する機会の増加に高評価。引き続き努力を期待しています。 ○特に1学年でこれまで取り組んで来られている勉強会から放課後の補習・講習、ならびに長期休業中の講習の実施などを是非継続いただきたい。 ○「家庭学習の充実」も「部活動の活性化」もアルバイトとどう向き合うかが重要。 ○コロナ禍で、生徒の学校に対する期待は一層高まっている。その期待に応えれば、学校全体のステップアップが可能だと思われるので、引き続き頑張ってください。 ○部活動について、生徒の評価が向上したのは大変喜ばしい事と思う反面、教員側のポイントが年々低下している。子供達の将来において、クラブ活動を通じて築き上げた生涯の友人関係は貴重な財産となり得るだけに、評価結果について要因分析と、評価を上げるための取組みを是非行っていただきたいと願います。 ○生徒の基本的な生活習慣は年々改善されており、部活動の活性化のための方策(全員に入学後1か月の体験入部など)を検討してください。 2 学校経営・運営体制の強化 ○コロナ禍の中で先生間連携や授業方法・工夫に十分な時間が取れてない状況があるのでは。コロナ禍で通常経営で手をつけられなかった点を来期は見直す事も重要だと思います。 ○各方面の指導の際に学年による相違はあまり出ていないのでしょうか。各学年の個性と学校全体の統一性のバランスが難しい課題ですので、より分掌と学年の連携を密にしてください。 3 地域連携活動、広報活動の充実 ○出前授業や交流について、より範囲を広げるなど更に充実させていただきたい。 ○「防災教育の推進」について、コロナ感染症の事も視野に入れながらより積極的に参加できる内容を検討させていただきます。 ○学校ホームページは生徒・保護者ともに閲覧する頻度が上昇。ますますホームページへのニーズが高まると思うので、内容の充実が一層心がけてください。 ○「家庭学習時間の確保」「学習習慣の確立」は少しずつではあるが上昇傾向で、進学実績も徐々に上がっている。ぜひこの実績を中学校にアピールしてください。 ○生徒が出身中学校で説明するような企画が欲しいです。 4 全体を通して ○どの学年もコロナ禍で予定変更を余儀なくされたにも拘わらず、当初の目標の多くを達成したように感じます。今後とも学年団が結束しながら生徒の指導に当たってください。

府立みどり清朋高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 授業力向上 ア授業改善に組織的に取り組む イAL、ICT機器を活用した授業づくり (2) 進路実現の支援 ア学習習慣の確立 イ組織的な補習講習体制の確立 ウ進路指導力の向上と生徒の能力を引き出す指導の実践 (3) 専門コース制の充実	(1) ア・研究授業、相互授業見学・学習会の実践 ・「観点別評価」等に係る実践及び評価の検証・分析 ・実習・体験学習の推進(校外も含む) ・新学習指導要領に則ったカリキュラムの策定 イ・「考える授業」、ICT機器等を取り入れた授業展開の開発・実践及び発表や説明の機会を増やす授業展開の実践 (2) ア・教育産業を効果的に活用する学習支援体制の確立 ・授業の予習復習を習慣づける家庭学習の充実 イ・教科を主体とする校内講習体制確立及び内容の充実 ・早朝や放課後、長期休業中の講習等の充実 ウ・担任の進路指導力向上に有効な情報交換会等の実施 ・適時な進路情報の提供、目標設定の支援 ・大学見学会の実施等、外部説明会への参加、卒業生との懇談会、同友会講演会による進路意識の向上 ・保護者向け進路説明会等の肌理細やかな情報の提供 (3) ・人文探究専門コース、一般系における新大学入試制度に適應した学力を保障する学習計画の構築及び実践 ・子ども保育専門コースにおける教科間連携の充実及び地域のこども園等との交流・連携の拡充	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断の「入学満足度」を83%(R1:82.3%) ・授業アンケート全評価軸平均3.20(R1:3.19) ・生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」74%(R1:73.6%) イ・生徒向け学校教育自己診断の「ICT機器の活用」満足度を維持(R1:85.0%) (2) ア・生徒向け学校教育自己診断の「家庭学習時間の確保」肯定率47%(R1:45.6%) イ・生徒向け学校教育自己診断の「補習講習は十分行っている」肯定率76%(R1:75.6%) ウ・生徒向け学校教育自己診断の「進路指導満足度」を80%(R1:79.8%) ・保護者向け学校教育自己診断の「進路情報提供満足度」を78%(R1:77.8%) (3) ・大学・短期大学・専門学校・就職など希望に応じた進路指導を丁寧に行う。 ・関西8私大及び国公立大学等の現役合格者数20人以上・園児と交流する授業を推進する。	(1) ア・生徒の興味関心を高め、考え・発表させる機会を増やすなど、個々の教員による努力がみられる。次年度は研究授業をより組織的に実践したい。 「入学満足度」82.3⇒ 85.9% (○) 「授業は分かりやすい」73.6⇒ 77.0% (○) 授業アンケート全評価軸平均3.19⇒ 3.28 (◎) イ・「ICT機器の活用」85.0⇒ 87.8% (○) (2) ア・勉強法の指導の徹底、家庭学習等の充実に向け、日々の授業等での啓発と指導の積み重ねが成果にむすびついている。さらに教育産業を活用した学習支援体制を組織的に進めていく。 「家庭学習時間の確保」45.6⇒ 51.8% (◎) イ・放課後、休日等の講習・補習等は充実した。「補習講習は十分に行っている」75.6⇒ 76.3% (○) ウ・「進路指導満足度」79.8⇒ 84.2% (◎) 「進路情報提供満足度」77.8⇒ 76.4% (△) (3) ・第一志望大学に合格する生徒が大幅に増えた。「関西8私大等」現役合格者数20⇒ 109人 (◎) ・保育園2園との交流で生徒が大いに活躍。(◎)
2 コミュニケーション力の育成	(1) 生徒指導の充実 (2) ともに高め合う集団育成 (3) 人権尊重の教育に充実	(1) ・全教職員が生徒指導課題を共有し、生徒の規範意識の向上にむけた組織的な実践 ・身だしなみや自転車マナーの講習会の開催 ・全教職員による授業規律、遅刻指導の徹底 (2) ・生徒会行事における生徒の主体的な活動の保障・拡充 ・グループワーク等を導入した表現力、発信力の育成 (3) 一人ひとりの違いを認め合い、安心して学び高め合うクラスづくりを意識した学級経営の実践 ・豊かな人権感覚を醸成する「総合的な探究の時間」のプログラム作成と実践、道徳教育の推進	(1) ・生徒向け学校教育自己診断の「基本的習慣の確立」の維持(R1:70.0%) ・遅刻者数前年比5%減(R1:1,383) (2) ・生徒向け学校教育自己診断の「人権教育の充実」肯定率80%(R1:78.4%) ・生徒向け学校教育自己診断の「クラス活動が活発」70%(R1:68.4%) (3) ・生徒向け学校教育自己診断の「クラスやクラブは一人ひとりが尊重」75%(R1:74.6%)	(1) ・「基本的習慣の確立」70.0⇒ 75.4% (◎) 「遅刻者数」1,383⇒ 1,031、25%減 (◎) (2) ・「人権教育の充実」78.4⇒ 85.6% (◎) 「クラス活動が活発」68.4⇒ 76.1% (◎) 感染症対策を講じた上での主体的な活動、グループワーク等のさらなる充実を図る。 (3) ・「一人ひとりが尊重」74.6⇒ 79.6% (◎) 生徒一人ひとりを大切に、日々生徒に向き合う中で粘り強く指導に当たってきた教員集団の努力と、生徒の理解・意識向上とがうまくかみ合ったと考える。 引き続き、学校をあげて生徒一人ひとりの人権を尊重した教育に取り組んでいく。 「総合的な探究の時間」については、今年度の実践を生かし、より系統的なプログラム作り、関係委員会のより組織的な運営につなげたい。
3 課題解決力の育成	(1) 主体的・対話的で深い学びの実践 (2) 部活動の充実	(1) 自分の考えをまとめて発表する学びの充実 ・論理的思考力・判断力・表現力の育成 ・SDGsに関する探究活動の企画・実践 ・読書活動を啓発する図書館を活用した教育の推進 (2) ・クラブ間交流の企画運営 ・外部指導者の活用 ・学校説明会等での中学生の部活動見学実施 ・ホームページによる活動報告等の随時発信	(1) ・生徒向け学校教育自己診断における「まとめて発表」47%(46.2) ・1年「総合的な探究の時間」でSDGsに関する研究発表会を実施する。 (2) ・部活動加入率54%(R1:52.3%) ・外部指導者を拡充し活動の充実を図る。 ・ホームページアクセス数を維持	(1) ・「まとめて発表」46.2⇒ 54.4% (◎) ・「総合的な探究の時間」での研究、発表会を実施(◎) (2) ・部活動加入率は51.2%に留まったが、コロナ禍で活動ができない中、代替試合や実施された公式試合や発表の場で生徒が努力の成果を発揮した。(○) ※生徒「部活動に積極的」47.5⇒ 61.4% (◎) ・ホームページ更新は今年度も維持した。(○)
4 地域貢献力の育成	(1) 地域と連携した教育活動の展開 (2) 防災意識の啓発 (3) 開かれた学校づくりの推進 ア タイムリーな保護者への情報提供 イ 中学校等への広報活動	(1) ア・地域の学校や福祉施設などとの連携推進 ・小・中学校への出前授業、こども園等での生徒の実習体験、自治会事業への参加の推進 ・部活動での小・中学生との交流 ・学校周辺の美化活動の推進 (2) 実働防災訓練のレベルアップとリアルな防災避難訓練の企画・実践。防災教育の取組みの実践 (3) ア・ホームページの活用 ・保護者対象の授業見学会や講演会、個人面談の充実 ・学校行事におけるPTAとの一層の連携 イ・生徒が活躍する学校説明会を開催(年2回) ・地域に根ざした中高連携の内容充実 ・出張模擬授業の実施、中学生への授業公開	(1) ア・地域連携指数(対象数×回数)を維持し内容を充実する(H29:112、H30:340、R1:780) ・生徒向け学校教育自己診断の「学校の美化環境」肯定率62%(R1:58.4%) (2) ・第3回職員実働防災訓練の実施 ・生徒向け学校教育自己診断の「命を大切にする心の醸成」肯定率を維持(R1:83.0%) (3) ア・保護者向け学校教育自己診断の「教育情報の提供」満足度を78%(R1:72.8%) ・本校HPの充実、アクセス数を維持 イ・生徒の司会進行による学校説明会(年2回) ・部活動での中学生交流会の実施(5部以上) ・近隣中学校への出張模擬授業、招待しての体験授業・授業公開を合わせて年3回実施	(1) ア・コロナ禍の為、保育園との交流を除き全ての行事は中止となったが連携は維持した。780⇒ 55 (一) ・部活動交流、地域美化活動は可能な限り実施した。「学校の美化環境」58.4⇒ 68.2% (◎) (2) ・防災アドバイザー派遣事業を生かし、アドバイスのもと消防署・地域の方と共に「避難訓練」を実施。今後、感染症対策を含む防災訓練について検討を更に進める。地元3町自治会長との意見交換は実現。 「命を大切にする心の醸成」83.0⇒ 85.4% (◎) (3) ア・授業や行事、部活動等での活躍を「校長だより」等でほぼ毎日発信した。アクセス数は上昇(TOP:139,282、校長だより:66,936)※1月末「教育情報の提供」72.8⇒ 76.8% (○)、「HPをよく見る」47.2%⇒ 56.4% (◎) イ・感染症対策等により予定通り実施できなかったため、生徒の司会進行は1回のみ(一)
5 学校運営体制の強化	(1) 新しい学校づくりを進める 運営体制の強化	(1) 全教職員が一丸となって、教育目標達成に向けて協力し 支え合い実践する組織づくり ・経験年数の少ない教員が安心して職務に専念できる0JTの充実とミドルリーダーの育成 ・分掌、学年、教科、事務室が有機的に結びつき、より機能的合理的に職務を遂行できる職員集団を形成する。 ・校務の多重化を解消することにより、「働き方改革」を推進し、時間外超過勤務を削減する。 ・SSW配置を継続し、教育相談支援体制を充実する。	(1) 生徒向け学校教育自己診断の「先生は互いに協力して指導」を62%(R1:60.3%) ・教職員向け学校教育自己診断の「授業方法等の検討する機会」肯定率50%(R1:32.7%) ・教職員向け学校教育自己診断の「組織間の連携」肯定率40%(R1:21.2%) ・教員の時間外超過勤務時間の月平均値を前年度比0.5時間減[4~1月](R1:33.5時間) ・教職員向け学校教育自己診断の「教育相談体制の整備」肯定率維持(R1:73.1%)	(1) ・「先生は互いに協力・指導」60.3⇒ 67.9% (◎) ・「授業方法等の検討する機会」32.7⇒ 34.7% (△) コロナ対応、土曜授業等により時間確保が難しい中最大限の努力が見られた。今後のカリキュラム編成と観点別評価の検討を更に進める。 ・「組織間の連携」は向上した。21.2⇒ 34.7% (△) ・時間外超過勤務時間月平均33.4時間 0.1減 (△) 組織改編を見直し、大職員室の機能を更に生かす。 ・SC、SSW、相談室、保健室、関係委員会の連携を図る。 「教育相談体制の整備」73.1⇒ 55.1% (△)